

都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業

都立高校におけるキャリア教育の取組を充実させるために、地域教育推進ネットワーク東京都協議会（※3ページ参照）の会員団体の協力を得て、実施しているものです。

【事業のねらい】

企業や大学、若者支援に関する専門的知識や経験を有するNPO等と連携し、都立高校生が社会や職業について、実感をもって理解しながら、将来社会人・職業人として生活していくために必要な能力等を身に付けることができる教育プログラムを普通科高校を中心に実施する。

東京都教育委員会が策定した「都立高校改革推進計画・第一次計画」（平成24年2月策定）で掲げられた目標Ⅱ「変化する社会の中での次世代を担う人間の育成」を実現するために、平成25年度から事業を開始し、平成27年度は50を超える団体の協力を得て、多くの都立高校で活用されています。

平成27年8月に策定された「東京都子供・若者計画」では、「全ての子供・若者が、青年期に社会的自立を果たすことができるよう、その成長を社会全体で応援」することを計画の理念としています。社会の一員であるとの自覚を持ち、互いの価値観を認め合い、共に生きていく社会を自らの力で切り拓いていく力を身に付けることが求められているのです。

変化の大きなこれからの社会を生きる高校生に、リアルな社会の姿を伝え、よりよい生き方を選択し行動していく意欲をもつことができるよう、企業やNPO等と学校との連携を広げながら、事業を実施しています。



キャリア教育とは

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

★キャリア教育を通して育成することが期待される「基礎的・汎用的能力」
分野や職種に関わらず、社会的・職業的に自立するための必要な基礎となる能力

人間関係形成・社会形成能力 例) 他者の個性を理解する力、コミュニケーション・スキル、リーダーシップなど	自己理解・自己管理能力 例) 自己の役割の理解、自己の動機付け、忍耐力、主体的行動など
課題対応能力 例) 情報の理解・選択・処理、課題発見、計画立案、実行力など	キャリアプランニング能力 例) 学ぶこと・働くことの目的・意義の理解、生き方の多様性の理解、将来設計など

★キャリア教育の実施に当たっては、社会や職業に関わる様々な体験的な学習活動の機会を設け、それらの体験を通して、子供・若者に自己と社会の双方についての多様な気付きや発見を得させることが重要である。

平成23年1月 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」より

100を超える様々な内容の教育プログラムがあります。例えば・・・

● 社会人と出会う、話す

- ・各教室に講師が入り、質問をしやすい形での講演
- ・社会人講師とファシリテーターが各教室に入り、社会人から話を聞き、ファシリテーターがインタビューの見本を見せる。グループでインタビューしてみる。
- ・体育館等の広い会場に、20名程度の社会人がコーナーをつくり、生徒は25分ずつ、3名の社会人から話を聞く。事前学習の時に、社会人のプロフィールを渡しておく。



● 働くための基礎知識を知る

- ・お金について考える
- ・ライフプラン、将来の家計シミュレーション、金融トラブルやローンについて等経済や金融の仕組み、株式の仕組み
- ・労働法、賃金、保険等



● 大学・進学先について知る

- ・大学生から、使っているテキスト、時間割、写真による学校紹介などにより、大学生生活、大学で学んでいる内容、将来の夢等について聞く。
- ・大学の通常の授業に参加する。
- ・オープンキャンパスの事前講座
- ・就職担当者から、高校時代の過ごし方、大学の選び方等を聞く。
- ・複数の専門学校が設置した職業別ブースで、様々な職業を体験する。



● チームで課題を解決する

- ・実在の企業から出されたミッションに、チームで取り組み、発表する。
- ・模擬会社をつくり、企業活動を体験。社会人が社外取締役としてサポート
- ・学校や地域の課題を見付けて、解決策を話し合い、発表する。

● コミュニケーション力を向上させる

- ・ゲーム的な内容から、小グループでの発表まで複数回で取り組む。
- ・いくつかのゲームで身体を動かし、短い演劇のシーンを創作し、発表する。
- ・小グループで、与えられた課題（目的地までの道を教えてもらう等）について社会人に説明、初めて出会う大人とコミュニケーションをとる経験をする。



● 学校外での体験活動を行う

- ・企業訪問
- ・支援団体が実施する高校生対象のプログラム

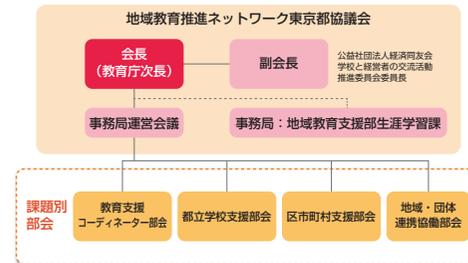
企業・大学・NPOと学校等をつなぐ 地域教育推進ネットワーク東京都協議会

詳細は、[東京都 ネットワーク](#) [検索](#) で御覧ください。

「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」は、企業・大学・NPO等とのネットワークをつくり、子供たちに豊かで、多様な体験学習活動が提供できるようにサポートし、活性化していく仕組みづくりを目指して、東京都教育委員会が平成17年8月に設置しました。この事務局を、地域教育支援部生涯学習課が担っています。

現在このネットワークは、450を超える企業・大学・NPO等とのつながりへと広がっており、学校の授業だけではなく、学校外の体験活動への橋渡しを行なっています。

今号で特集している「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」は、地域教育推進ネットワーク東京都協議会の会員団体に協力を呼びかけて、実施しています。



教育プログラムの紹介と組み合わせ事例

複数のプログラムを組み合わせ、導入する高校が増えています

プログラムの組合せ例1

コミュニケーション力の向上
～高校生活を考える～働くことを考える

1 学期

- ・からだで感じる「コミュニケーションワークショップ」(4回)
- ・大学生と高校生活を考える①

1 学期

からだで感じる「コミュニケーションワークショップ」

連続2コマ×3回以上
＜NPO法人ドラマケーション普及センター＞

コミュニケーション能力、表現力の向上を目的として、100種類以上のワークを組み合わせ、身体を使ったコミュニケーションを経験するプログラム

- ▶ 初めに「コミュニケーションの必要性」「社会が求める人材とは」の話
- ▶ 自分の気持ちを伝え、相手の気持ちを受け取る。
- ▶ 発言、発表の経験を繰り返すことで、人前に出ることの抵抗感を少なくする。
- ▶ 自由な発想により、言葉の構成力を高める。



- ① 人間関係作り
- ② コミュニケーション能力の向上
- ③ 自己表現力
- ④ 他者と関わる経験を蓄積させる

主にこの四つの目的に合わせて、回ごとに生徒の様子や、雰囲気、変容を見ながら、学校の要望にマッチするプログラムに組み立てています。

◆最終回に2分間スピーチを行います。 「ロールプレイ模擬面接」(生徒が面接官、受験者、観察者の三つの立場を体験)のプログラムの追加実施も可能です。

カスタマイズのポイント

- 年間計画の中に大学生や職業人の話を聞くプログラムがある場合には、その前に話ができる個人・集団の状態を作ることを目的に含め実施します。グループワークやディスカッションのプログラムがある場合には、その前に誰でも話合いができる状態を作ることを目的に含めて実施します。
- 進路や将来に対する意識を高めたい場合、又は他のプログラムによって意識付けをした後は、2分間スピーチやロールプレイ模擬面接を行うプログラムが有効です。

2 学期

大学生と高校生活を考える／大学生と進路を考える

連続2コマ×1～3回
＜NPO法人キッズドア＞

- ▶ 年齢の近い大学生から、高校生活の過ごし方や勉強方法のエピソード、現在の大学生としての生活や将来の夢等について聞く。
- ▶ 質疑応答の時間を多くとることで、高校生がキャリアプランを具体的にイメージできるようにする。

- 1クラスに複数の大学生が入り、違うグループで話すことで、生徒は複数の大学生の話を知ることができるプログラムです。ディスカッションしやすく、複数のモデルと出会うことで、多くの選択肢の中から、自分に合った進路等について考えることができます。
- 高校の希望、授業回数によって、高校生活、進路、就職等、大学生が話すテーマや進め方を相談しながら実施しています。



プログラムには、社会人になるための基礎力を養成するもの、自己適性の理解や、複数回数で体験的な学習に取り組むものなど、様々な内容のものがあります。

学校として実施しているキャリア教育の年間計画に沿い、生徒の状況に合った内容のプログラムを組み合わせ、効果が高まります。ここでは二つの例を紹介します。

2 学期

- ・大学生と高校生活を考える②

3 学期

- ・好奇心からつながる仕事マップをつくろう
- ・Money Connection®

3 学期

好奇心からつながる仕事マップをつくろう

連続2コマ×2回
＜13歳のハローワーク公式サイト(株式会社トップアスリート)＞

- ▶ 自分の好きなことを書き出す個人ワーク
- ▶ その中から一つのテーマを見つけ、そのテーマに関する仕事を書き出していく。
- ▶ グループで互いにアドバイスし合い、仕事マップとして完成させる。

- 自分の興味や得意分野から職業を考える中で、職業の多様性を理解し、様々な職業に関心をもつとともに、グループで話し合う中から多くのアイデアが出る経験を通して、コミュニケーションや、チームで取り組むことの楽しさを感じることが出来ます。



3 学期

Money Connection®

連続2コマ×1回
＜認定NPO法人育て上げネット＞

生きていくために必要な「お金」と「働くこと」についての基本的な知識をシミュレーションで学習するプログラム。働き方を選択するのは自分自身であり、将来を見据えた進路選択の大切さを確認することができます。

- ▶ 一人暮らしに必要な生活コストを知る個人ワーク
- ▶ カードを使い、10年後の働き方についてシミュレーションするグループワーク
- ▶ 働き方(フリーター、派遣社員、正社員)の特徴を知る。
- ▶ グループで感じたことについて意見交換

- 個人ワーク、グループワークともに具体的な数字により考えさせる教材になっており、進行する中でグループでの話合いが進み、率直な意見が出てきます。

◆他に、「モバイルコネクション」「ライフコネクション」のプログラムもあり、組み合わせることも可能です。

生活費の内訳(月給)	項目	金額
10万	食費	10,000円
	交通費	5,000円
	通信費	3,000円
	雑費	2,000円
	学費	10,000円
	生活費	10,000円
	娯楽費	5,000円
	保険料	5,000円
	税金	5,000円
	その他	5,000円
合計	70,000円	

カスタマイズのポイント

- 事前打合せにおける先生からの提案を基に、外国籍の生徒等が理解できるように、生活コストのワークシートについて、振り仮名付き、図入りの補助シートを作成。従前の進め方より、生徒の理解促進と比較的スムーズな回答を実現しました。
- 授業最後に生徒が書く振り返りシートでは、自由記入の感想欄は少なくし、10年後の自分がどのようになっていたか、そのために今後の学校生活で取り組んでおこうと思うことは何か、を書き出させるステップを、アウトプットの機会としています。